

九州 ハイブリッドとうごう 44号 & 45号【晩生品種】栽培暦 一版

2025年11月 (株)水稲生産技術研究所

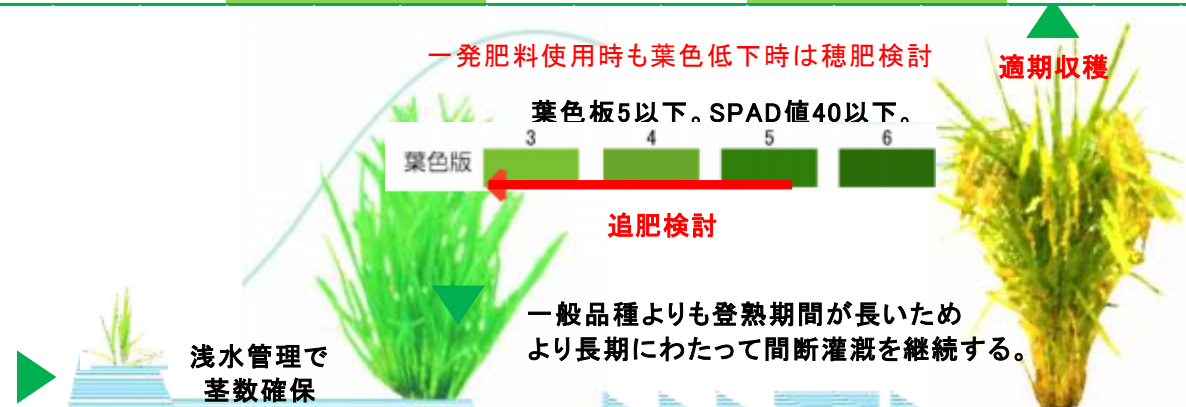
作 期 目 安	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	推 奨						田 植						出 穂						収 穫		
	ヒノヒカリ(参考)						田 植						出 穂						収 穫		

●作期留意点

- ・高温登熟を避けるため、
盆明け出穂を目指す。

●栽植密度

- ・慣行と同等。
- ・疎植栽培で茎が太くなる
可能性があるので注意。



分げつ期

最高分げつ期

幼穂形成期

出穂期

成熟期

＜施肥(N成分)目安＞

- 一発肥料(120日タイプ) 10～12kg/反
- ※コシヒカリ栽培時に6～7kg/反施用する圃場。
- 圃場地力により加減する。
- 分施の場合は基肥6～7kg+穂肥2～3kg/反が目安

＜最高分げつ期生育目安＞

目標茎数	葉色	有効茎歩合
550 本/㎡	SPAD値 45	65% 以上

＜穂肥目安＞

- 1回目:出穂20～18日前頃
- 2回目:出穂15～10日前頃
- ＜実肥＞
- 登熟が遅れる懸念があるため非推奨。

＜収量構成要素の目標(750kg/反)＞

穂数	一穂粒数	千粒重
360 本/㎡	130 粒	25-26 g

＜播種量＞

- 地域慣行と同等。種子の大きさは一般品種と同等。
- 密苗栽培も可能。

＜消毒＞

- 未消毒種子のため必ず適切な種子消毒を実施。
農薬使用時の温度条件に注意する。

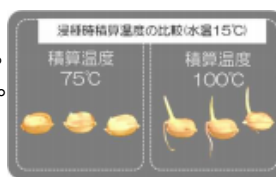
- 塩水選は行わない。

＜催芽処理＞

- 一般品種より早く芽が動く
ため加温のし過ぎに注意する。
- 水温10℃以上で浸種を行う。

＜育苗日数＞

- 地域慣行と同等。



＜中干し＞

- 小ひびが入り地固めできる程度
にしっかりと実施。
- 過剰分げつが懸念される場合は、
早めに実施。

＜高温登熟対策＞

- 出穂後高温が予想される場合は、
かけ流し灌漑や屋間の保水管理
を実施。また落水時期を延長。



＜防除＞

- 地域慣行と同等。ただし下記やトビイロウンカ被害が大きい地域
では箱施用での防除推奨。
- ※要注意病害虫
- ・紋枯病、稻こうじ病、白葉枯病、イネツトムシ、ニカメイチュウ
- 出穂が周辺作付品種とずれる場合は、カメムシ防除時期に注意。

＜収穫＞

- 胴割粒の防止のため、籾黄化率90%程度の収穫を推奨。
穂先端からの胴割に注意しつつ、下部まで登熟させる。
- 籾黄化率90%未満の早刈りで未熟粒が多発し減収する。
- ゆっくりとした速度で収穫する。

＜乾燥＞

- 一般品種と同じ。

＜調製＞

- 網目は一般品種と同じ。
粒が大きいため、網選では品質向上につながりにくい。
- 着色粒や被害粒を中心に色彩選別機で選別。
白度の感度を強くすると収量減に繋がる。

